

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

国立大学法人鳴門教育大学教職大学院 清水 和美（大学院生）

A-10

【活動名】「個々の教員に学校組織マネジメントの当事者意識を喚起する実践的アプローチ」

解決すべき課題： 解決した課題

学校組織マネジメントは、1998年9月の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」より導入され推し進められてきているが、学校現場ではその理念が浸透し、学校の自主性・自律性が確立されているとはいえない現状がある。それは、個々の教員が学校組織をマネジメントする当事者としての意識をメタ認知する機会が少ないことが原因だと考えられる。その学校に属する一人一人の教員に学校組織マネジメントの当事者としての意識が醸成されていなければ、教員が日々接している生徒の現状などから見えてくる「学校の強みや弱み」を的確に把握することができず、また、どのような力をつけて生徒を社会に送り出したいのかというビジョンの創造・共有をした上で、そのビジョン達成に向けた個々の教員の教育実践を積み重ねることもできない。その結果として、自律的学校経営の実現が不可能となってしまう。そこで、今回の活動の中では解決すべき課題を「学校組織マネジメントに対する教員の当事者意識の認知の低さ」として取り組むこととした。

目的や背景： 課題の背景・活動の目的

「学校組織マネジメントに対する教員の当事者意識の認知の低さ」の背景は、学校現場の教員の多忙と深く関係していると考えられる。多忙な学校現場では学校組織としてのビジョンを打ち立てる時間を確保することが難しく、個々の教員が「今必要なこと」にとらわれて対処療法的に取り組んでしまう。個々の教員の考えのもと教育実践がなされていくので、誰と実践を共有すべきかが明確ではなく、必要な実践の共有も進んでいかない。このような結果、日々の業務に追われてしまうようになり、学校組織マネジメントに対する当事者意識を持つ機会が少なくなっていると考えられる。そこで、今回の活動では、学校組織マネジメントの当事者意識の発揚につながる取組を事前に行った上で、「学校組織マネジメント研修」を開催し、学校組織の構成員である教員一人一人が当事者意識をメタ認知するきっかけを作り、学校組織マネジメントに対する当事者意識を保持できるようにすることを目的としている。

活動内容： やったこと・活用した研修の内容（ここでは、プレゼンテーションは「プレゼン」、ワークショップは「WS」と表記）

1、学校組織マネジメントに対する当事者意識を喚起する！

学校で共有するビジョンとしての「授業で育成したい力（新学習指導要領を基に作成）」を決定できるよう、アンケートを実施する。全生徒対象の「『学びに向かう力』についてのアンケート」を実施、「授業」に関する生徒の実態を把握し「強みと課題」を共有する。クラスデータ、学年別データ、学校全体データとしてアンケート結果を全教員に配布し、分析結果を通信にまとめる。

2、学校内に埋まっている素晴らしい実践を掘り起こし共有する！

学びに対する意欲が高いクラスの担任にどんなことを実践しているかインタビューし、研修時の資料とする。校内の教員対象の公開授業週間にあわせて、「学びに向かう力」を育成するための授業づくりのヒントとなるよう授業観察視点シートを作成・配布した上で、授業観察・シートの活用を率先垂範し、特に優れた授業実践を通信や研修時の資料にまとめ広報する。

3、「学校組織マネジメント研修」で、当事者意識をメタ認知する！（全教員を対象・90分間・プレゼンとWSを実施）

学校組織マネジメント指導者養成研修「学校ビジョンと戦略」「学校組織マネジメントの3つの視点（P7）」や教員の多忙の現状、1と2の活動より作成したデータを基にプレゼン資料を作成し、当事者意識の喚起と教育実践の共有の大切さを可視化する。学校組織マネジメント指導者養成研修「学校の戦略マップを作る」で実施した「3年間を見据えたラフプラン」と「学校組織マネジメントの推進」の演習形式を組み合わせたWSを行い、全教員でビジョンを基に必要な具体的取組を考える。

4、研修を受けて終わりにせず、当事者意識を保持し続ける！

「学校組織マネジメント研修」のプレゼンデータやWSのデータ、学校組織マネジメントの構想図を作成し印刷室に掲示する。研修後に生まれたアイデアを構想図に記入添付できるように、付箋やペンを用意し、見本として意見を記入し貼り付ける。

活動の成果： 得られた成果

授業に対する生徒の意識調査の結果、本活動の実施校では「生徒の学びに対する意欲が高い傾向にあること」が明確になった。教員はそのデータを目にしたことで、生徒の学習に対する意欲を活かしつつ、どのように生徒の力を伸ばしていくべきかを具体的に考えるようになり、学校の変革に対しての前向きな姿勢が見られるようになった。授業実践の共有を図ったことにより、教員が同僚と学び合うことの意義を理解し、具体的に行動する教員も増えた。その結果、学校組織マネジメント研修に積極的に参加し、WSでは活発な話し合いのもと、多様なアイデアを創出・共有することができた。「学校組織をマネジメントするのは、管理職だけではない。学校組織を構成する一人一人の教員である。だから自分もその意識を持って、学校づくりに関わっていなければならない。」という意見をアンケートに記入している教員や、研修後も壁WSに意見を記入する教員も出てきており、学校組織マネジメントに対する当事者意識の喚起・保持につなげることができた。

アピールポイント（アイデア）： もっともがんばったこと・注目したことのアピール

今回の活動では、どのようにして教員に学校組織マネジメントの当事者としての意識を喚起するかということにこだわった。そのために、何を取り上げ、事前どのような準備をすべきかをじっくり考えた。研修では全ての教員の関心が高い「授業」と「多忙化」を取りあげたり、教員が具体的に問題を認識しやすいように生徒の意識調査を事前に行い具体的なデータを見せたりする工夫を行い、教員自身が選択する機会を与え、教員の心が動く機会を作るように心がけた。

また、個々の教員が研修を受けて終わりということになってしまわないように、研修時に出た教員の意見や高校生活に対する生徒の思いを印刷室に掲示し、研修の振り返りができる環境づくりを行った。その上で、教員の多忙な現状を考慮して、「学校組織マネジメント」構想図を作成し、仕事の合間を活用して個々の教員の学校組織マネジメントに関するアイデアを創出共有しやすいよう、付箋とペンを用意し壁WSを実施できるように環境を整え、当事者意識を保持できるようにしたことが今回の活動のアピールポイントである。

別添資料

活動内容：「個々の教員に学校組織マネジメントの当事者意識を喚起する実践的アプローチ」（鳴門教育大学教職大学院 清水和美）

1、学校組織マネジメントに対する当事者意識を喚起する！

①当事者意識の発揚のため、教員の選択の機会を作る（授業実践について）

Point 1
次期学習指導要領をもとに作成

②教員の合意で決まった育成したい力について、生徒の実態を知る機会を作る

Point 2
生徒の意識を可視化することで教師のやる気を起こす

Point 3
マークシート処理ソフトで簡単にデータ化が可能

③アンケートの結果や分析を全教員に配布し、実践をメタ認知する機会を作る

Point 4
生徒の生の声を教員につなげる

Point 5
「通信」を作成配布して、分析結果を広報する

2、学校内に埋まっている素晴らしい実践を掘り起こし共有する！

①学びに対する意欲の高いクラス担任に実践していることをインタビューし、実践を共有する

Point 6
変革への意識向上のため、シートも次期学習指導要領をもとに作成

「学校組織マネジメント研修」スライド資料

②「学びに向かう力」育成のための授業観察視点シート

Point 7
「多忙化と授業」を中心テーマとして当事者意識を高める

③授業観察の率先垂範とモデル授業の広報し、実践を共有する

率先垂範した授業観察で見つけたモデル授業

「学校組織マネジメント研修」スライド資料

Point 8
印刷の際間時間に学校組織マネジメントについて考え、気軽に付箋に記入する（壁WS）

3、「学校組織マネジメント研修」で、当事者意識をメタ認知する！

①当事者意識の喚起と教育実践の共有の大切さを可視化する

Point 9
研修後も「通信」で当事者意識の保持を図る

②3年間を見据えたラフプランでビジョンと具体的な取組の創出する

Point 8
印刷の際間時間に学校組織マネジメントについて考え、気軽に付箋に記入する（壁WS）

4、研修を受けて終わりにせず、当事者意識を保持し続ける！

研修のプレゼンデータやWSのデータ、学校組織マネジメントの構想図を作成し振り返りの機会を作るとともに、壁WSで研修後に生まれたアイデアを共有する機会を作る

Point 9
研修後も「通信」で当事者意識の保持を図る

←壁WSのための構想図

Point 8
印刷の際間時間に学校組織マネジメントについて考え、気軽に付箋に記入する（壁WS）

Point 9
研修後も「通信」で当事者意識の保持を図る